第7期北海道農業・農村振興推進計画の概要

本道農業・農村を取り巻く社会情勢

(1) 世界の情勢
- 食料安全保障上のリスクの高まり
- 食市場の拡大
- 経済のグローバル化と不確実性の増大

(2) 国内の情勢
- 人口減少に伴う人手不足と食市場の縮小
- 深刻化する地球温暖化
- 米不足を契機とした農業政策への関心の高まり

(3) 道内の情勢
- 全国を上回るスピードで続く人口減少
- 次世代半導体プロジェクトの進行

本道農業・農村の動向と将来展望

(1) 農業構造と経営の動向

・農地
耕地面積は平成2年(1990年)をピークに減少し、近年は横ばいで推移

・農業経営体
農業経営体は、令和6年(2024年)で3万 1,200経営体と減少で推移し、このうち、個人経営体は減少で推移する一方、法人経営体は横ばい

・農業従事者
個人経営体の基幹的農業従事者は、令和6年(2024年)で6万5,200人と減少で推移。
また、65歳以上が占める割合は大きくなっており、高齢化が進展

(2) 農業・農村の動向予測
道総研の動向予測では、本道の個人経営体の経営体数は今後も減少で推移し、令和17年(2035年)には1.8万経営体まで減少すると推計

(3) スマート農業技術の普及

(4) 農業の技術開発の展望

本道農業・農村の潜在力

- 良質な食料の高い供給力
- 厳しい自然条件下で培った優れた技術
- 多様で豊富な地域資源

本道農業・農村の役割

食を支える
地域と所得を支える
多面的機能を発揮する

おおむね10年後の「めざす姿」　令和17年(2035年)頃

日本の食を力強く支える豊かな農業・農村

本道の農業・農村への共感を礎に、主要穀物などの主産地である本道が、
持続可能で潤いのある農業・農村を確立し、我が国の食料安全保障に最大限貢献しています。

「めざす姿」の実現に向けた施策の推進方針と展開方向

計画期間:令和8年度(2026年度)～令和12年度(2030年度)

食料を安定的に供給する農業・農村
- ○優良農地の確保と適切な利用の促進、農業生産基盤の整備・保全の推進
- ○担い手の経営体質の強化、新規就農者の育成・確保、経営感覚を備えた農業経営者の育成、営農支援組織の育成・強化
- ○試験研究機関などによる技術開発と普及活動の推進、スマート農業の推進
- ○需要に応じた生産・供給体制の強化、国内外の販路拡大

我が国の食料安全保障への貢献

環境と調和のとれた持続可能な農業・農村
- ○農業分野における環境負荷の低減
- ○環境保全型農業の推進
- ○道内資源の利用の促進
- ○多面的機能の発揮

誰もが安心して住み続けられる農業・農村
- ○農村における女性の活躍、働きやすい環境づくりと多様な人材の受入れ
- ○多様な地域資源を活用した付加価値の創出
- ○地域コミュニティ機能の維持・強化、安全で快適な生活環境の整備

消費者と生産者が支え合う農業・農村
- ○食の安全・安心の確保
- ○食育・地産地消の推進
- ○都市と農村との交流の拡大

本道の農業・農村への共感

「めざす姿」の実現に向けて配慮すべき事項

- ◆地域の個性や主体性の発揮
- ◆気候変動への対応
- ◆デジタル技術の活用
- ◆分野横断的な施策展開

地域農業・農村の「めざす姿」と主な取組の方向

※振興局単位を基本

1 地域農業の特色　2 現状と課題　3 地域農業・農村の「めざす姿」
4 「めざす姿」の実現に向けた取組の方向

計画の推進

推進体制、市町村や関係団体などとの連携・協働、進行管理

数値目標

●国産供給熱量に占める北海道のシェア
23%→30%

●農業・農村に関心を持っている道民の割合
79%→90%

KPI

1 食料を安定的に供給する農業・農村の確立
①農用地区域内の農地面積
②担い手への農地の利用集積率
③大区画化(1ha以上)した水田の整備率
④畑地・草地における暗渠排水の整備率
⑤農業法人及び49歳以下の担い手数
⑥営農支援組織数
⑦協同農業普及事業の重点プロジェクト課題で設定した目標事項の達成率
⑧データを活用した農業を行っている経営体の割合
⑨主要品目ごとの生産量
⑩道産農産物などの輸出額

2 環境と調和のとれた持続可能な農業・農村の確立
⑪YES!clean及び特別栽培農産物の作付面積
⑫有機農業の取組面積
⑬農業分野のJ－クレジット認証量
⑭多面的機能が発揮される取組が行われている農用地面積

3 誰もが安心して住み続けられる農業・農村の確立
⑮指導農業士の女性農業者の認定数
⑯地域農業の方針策定などに参画する女性の割合
⑰農福連携に取り組む農業経営体数
⑱6次産業化の取組による年間販売金額
⑲企業などの農業への参入件数
⑳教育旅行における農家などでの宿泊者数
㉑地域資源の保全を行う活動組織に参加する農業者以外の地域住民などの割合
㉒農業産出額に対する野生鳥獣による農作物被害額の割合

4 消費者と生産者が支え合う農業・農村の確立
㉓食育の取組件数(学校、市町村、団体・ボランティア)
㉔学校給食における地場産品の使用率
㉕北海道農業・農村の魅力を発信する道のSNSフォロワー数

KPI一覧

番号	KPI	数値 (参考)現状値	KPIの説明
1	農用地区域内の農地面積	**112万ha** (112.3万ha(R5年))	農地としての利用を図るべき土地の面積。優良農地が確保されている状況を示す。
2	担い手への農地の利用集積率	**94%** (91.8%(R5年度))	耕地面積のうち認定農業者などが集積している面積の割合。農業生産を支える担い手が農地を利用している状況を示す。
3	大区画化(1ha以上)した水田の整備率	**32%** (21.1%(R4年度))	生産性が向上する水田の大区画化の整備が行われている割合。農業生産基盤の整備が計画的に進められている状況を示す。
4	畑地・草地における暗渠排水の整備率	**68%** (64.4%(R4年度))	生産性や農作物の品質が向上する暗渠排水の整備が行われている割合。農業生産基盤の整備が計画的に進められている状況を示す。
5	農業法人及び49歳以下の担い手数	**11,000経営体** (11,758経営体(R5年))	認定農業者及び認定新規就農者の認定を受けた49歳以下の経営者及び農業法人の合計。将来的に担い手が確保されている状況を示す。
6	営農支援組織数	**500組織** (495組織(R5年度))	コントラクター、TMRセンター及び酪農ヘルパー組織の総数。地域で経営体を支える支援組織が確保されている状況を示す。
7	協同農業普及事業の重点プロジェクト課題で設定した目標事項の達成率	**80%** (72%(R5年度))	協同農業普及事業における重点プロジェクト課題で設定した目標事項が達成された割合。地域課題に対応した技術が普及している状況を示す。
8	データを活用した農業を行っている経営体の割合	**50%** (28%(R5年))	生産履歴、生育状況、気象状況、栽培管理などの情報データを活用した農業を行っている経営体の割合。スマート農業技術が普及している状況を示す。
9	主要品目ごとの生産量	**別　表**	主要品目ごとの作付面積、単収及び生産量。需要に応じた農産物の安定的な生産・供給が行われている状況を示す。
10	道産農産物などの輸出額	**250億円** (155億円(R5年))	道産農産物及び道産農産加工品の輸出額。海外販路開拓が図られ、農産物の安定的な生産・供給が行われている状況を示す。
11	YES!clean及び特別栽培農産物の作付面積	**38,000ha** (29,300ha(R5年))	YES!clean農産物と特別栽培農産物の作付面積。農業生産活動において環境負荷低減が図れている状況を示す。
12	有機農業の取組面積	**11,000ha** (10,536(R5年))	有機農業の取組面積。農業生産活動において環境負荷低減が図れている状況を示す。
13	農業分野のJ-クレジット認証量	**100,000t-CO_2** (3,000t-CO_2(R5年度))	温室効果ガスの排出削減・吸収量を認証する農業分野のJクレジットの累積認証量。農業分野において温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す取組が行われている状況を示す。
14	多面的機能が発揮される取組が行われている農用地面積	**87.5万ha** (86万ha(R5年度))	多面的機能支払制度や中山間地域等直接支払制度により持続的な生産活動が行われ、多面的機能が維持されている農用地の面積。環境と調和のとれた農業が行われている状況を示す。
15	指導農業士の女性農業者の認定数	**130人** (90人(R5年))	指導農業士に認定された女性の人数。農村で多様な人材が活躍している状況を示す。
16	地域農業の方針策定などに参画する女性の割合	**農業委員　30%** **農業協同組合役員　20%** **土地改良区理事　10%** (農業委員　10.1%(R5年度) 農業協同組合役員2.3%(R5年度) 土地改良区理事0.7%(R5年度))	農業委員、農業協同組合の役員及び土地改良区の理事のうち女性の割合。農村で多様な人材が活躍している状況を示す。
17	農福連携に取り組む農業経営体数	**250経営体** (178経営体(R5年度))	農福連携に取り組む農業経営体の数。農村で多様な人材が活躍している状況を示す。
18	6次産業化の取組による年間販売金額	**2,370億円** (2,264億円(R5年度))	農業経営体や農業協同組合などが運営する農業及び漁業の生産関連事業の年間販売総額。地域資源を活かして付加価値が創出されている状況を示す。
19	企業などの農業への参入件数	**420法人** (364法人(R5年))	農業以外の事業を営む企業が設立などした農業法人の数。民間企業との連携の下、地域資源を活用して付加価値が創出されている状況を示す。
20	教育旅行における農家などでの宿泊者数	**13,000人** (3,620人(R5年度))	修学旅行や体験学習で農村に宿泊した人数。地域資源を活用して付加価値が創出されている状況を示す。
21	地域資源の保全を行う活動組織に参加する農業者以外の地域住民などの割合	**33%** (25.2%(R5年度))	地域資源の保全を行う活動組織に参加している地域住民のうち、農業者以外の住民などの割合。地域コミュニティが維持され、農村で安心して暮らしている状況を示す。
22	農業産出額に対する野生鳥獣による農作物被害額の割合	**0.40%** (0.47%(R5年))	野生鳥獣による農作物被害額と農業産出額とを比べた割合。農村での生産活動や生活に関する不安が緩和され、安心して暮らしている状況を示す。
23	食育の取組件数(学校、市町村、団体・ボランティア)	**1,800件** (1,699件(R5年度))	学校や市町村、団体・ボランティアが主体となって行われた食育活動の件数。農業・農村に対する理解が醸成されている状況を示す。
24	学校給食における地場産品の使用率	**50%** (47.3%(R5年度))	学校給食における食品数に対する地場産の食品数。農業・農村に対する理解が醸成されている状況を示す。
25	北海道農業・農村の魅力を発信する道のSNSフォロワー数	**10,000人** (584人(R5年))	本道の農業・農村に関心を持ち、情報を発信する道のSNSをフォローしている人数。農業・農村に対する理解が醸成されている状況を示す。

主要品目ごとの生産量

（単位：t、kg/10a、ha）

KPI			（参考）現状値（R5年）
米	生産量	642,600	583,137
	10a当たり収量	595	583(579)
	作付面積	108,000	101,700
小麦	生産量	743,850	717,100
	10a当たり収量	570	542(517)
	作付面積	130,500	132,300
大麦	生産量	8,000	6,110
	10a当たり収量	400	357(390)
	作付面積	2,000	1,710
大豆	生産量	119,250	115,600
	10a当たり収量	265	255(242)
	作付面積	45,000	45,300
小豆	生産量	57,460	29,100
	10a当たり収量	260	139(220)
	作付面積	22,100	20,900
いんげん	生産量	11,000	4,910
	10a当たり収量	200	90(133)
	作付面積	5,500	5,450
てん菜	生産量	3,370,000	3,403,000
	10a当たり収量	6,730	6,650(6,734)
	作付面積	50,000	51,200
馬鈴しょ	生産量	1,970,000	1,916,000
	10a当たり収量	3,940	3,950(3,682)
	作付面積	50,000	48,500
そば	生産量	20,400	13,700
	10a当たり収量	85	55(71)
	作付面積	24,000	24,900
野菜	生産量	1,611,520	1,549,244
	10a当たり収量	-	-
	作付面積	50,650	49,309

KPI			（参考）現状値（R5年）
果実	生産量	21,580	17,658
	10a当たり収量	-	-
	作付面積	3,020	2,819
飼料作物	生産量	21,836,000	20,291,000
	10a当たり収量	-	-
	作付面積	582,700	582,700

※「10a当たり収量」欄の（ ）は、当該年を含む直近7中5平均値

（単位：t、kg/頭・年、頭、千羽）

KPI			（参考）現状値（R5年）
生 乳	生産量	4,450,000	4,170,000
	1頭当たり乳量	9,700	8,901
	飼養頭数	780,000	821,500
	うち経産牛	459,000	468,000
牛 肉	生産量（枝肉換算）	99,600	99,426
	飼養頭数	561,000	558,600
	うち専用種	242,000	213,800
	うち乳用種	319,000	344,800
豚 肉	生産量（枝肉換算）	113,355	108,995
	と畜頭数	1,428,000	1,377,482
	飼養頭数	782,000	752,200
	うち子取用雌豚	68,800	66,200
鶏 肉	生産量	85,288	85,288
	飼養羽数	5,531	5,531
鶏 卵	生産量	72,407	72,407
	飼養羽数	5,670	5,670

注：生乳の生産量は4月から3月までの合計